

【B年】降誕前第9主日(2023年10月29日)

【旧約聖書日課】創世記 1章1～5節、24～31節

1初めに、神は天地を創造された。2地は混沌であつて、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3神は言われた。

「光あれ。」

こうして、光があつた。4神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、5光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があつた。第一の日である。

24神は言われた。

「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」

そのようになった。25神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。26神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造らう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

27神は御自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

28神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

29神は言われた。

「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。30地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

そのようになった。31神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かつた。夕べがあり、朝があつた。第六の日である。

【使徒書日課】コロサイの信徒への手紙1章15～20節

15御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。16天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。17御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。18また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。19神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、20その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 1章1～14節

1初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。2この言は、初めに神と共にあつた。3万物は言によって成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかつた。4言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。5光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかつた。

6神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。7彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。8彼は光ではなく、光について証しをするために来た。9その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。10言は世にあつた。世は言によって成つたが、世は言を認めなかつた。11言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかつた。12しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。13この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

14言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

創世記1章1～5節、24～31節

1初めに神は天地を創造された。2地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3神は言われた。「光あれ。」すると、光があった。4神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、5光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

24神は言われた。「地は生き物をそれぞれの種類に従って、家畜、這うもの、地の獣をそれぞれの種類に従って生み出せ。」そのようになった。25神は地の獣をそれぞれの種類に従って、家畜をそれぞれの種類に従って、地を這うあらゆるものをそれぞれの種類に従って造られた。神は見て良しとされた。

26神は言われた。「我々のかたちに、我々の姿に人を造ろう。そして、海の魚、空の鳥、家畜、地のあらゆるもの、地を這うあらゆるものを治めさせよう。」

27神は人を自分のかたちに創造された。

神のかたちにこれを創造し
男と女に創造された。

28神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて、これを従わせよ。海の魚、空の鳥、地を這うあらゆる生き物を治めさせよ。」

29神は言われた。「私は全地の面にある、種をつけるあらゆる草と、種をつけて実がなるあらゆる木を、あなたがたに与えた。それはあなたがたの食物となる。30また、地のあらゆる獣、空のあらゆる鳥、地を這う命あるあらゆるものに、すべての青草を食物として与えた。」そのようになった。

31神は、造ったすべてのものを御覧になった。それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

コロサイの信徒への手紙1章15～20節

15 御子は、見えない神のかたちであり

すべてのものが造られる前に
最初に生まれた方です。

16 天にあるものも地にあるものも

見えるものも見えないものも
王座も主権も

支配も権威も

万物は御子において造られたからです。

万物は御子によって、

御子のために造られたのです。

17 御子は万物よりも先におられ

万物は御子にあって成り立っています。

18 また、御子はその体である教会の頭です。

御子は初めの者

死者の中から最初に生まれた方です。

それは、ご自身がすべてにおいて

第一の者となるためです。

19 神は、御心のままに

満ち溢れるものを

余すところなく御子の内に宿らせ

20 その十字架の血によって平和を造り

地にあるものも

天にあるものも

万物を御子によって

ご自分と和解させてくださったのです。

ヨハネによる福音書1章1～14節

1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。2この言は、初めに神と共にあった。

3-4万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。5光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった。

6一人の人が現れた。神から遣わされた者で、名をヨハネと言った。7この人は証しのために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じる者となるためである。8彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

9まことの光があった。その光は世に来て、すべての人を照らすのである。10言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。11言は自分のところへ来たが、民は言を受け入れなかった。12しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には、神の子となる権能を与えた。

13この人々は、血によらず、肉の欲によらず、人の欲にもよらず、神によって生まれたのである。

14言は肉となって、私たちの間に宿った。私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・10月29日「降誕前第9主日」の日課主題は「創造」。日本基督教団の「新しい教会暦」は、「待降節」に入る前5週を「降誕前」期とし、「旧約の物語」を基礎づける主日聖書日課を定めている。この「降誕前」の5週に取り上げられる旧約主題は、「創造」、「墮罪」、「アブラハムにおける神の民の選び」、「モーセにおける救いの約束」、「ダビデ=メシアとしての王の職務」、となっている。

・「降誕前第9主日」から、主日聖書日課は新しいサイクルが始まる。今回は、「ヨハネ福音書」を基軸とするD年の主日聖書日課。なお、教会暦の扱いは、伝統的な「待降節」から始まる年間サイクルを用いる。

・旧約聖書日課は、「創世記」から、天地創造とそこにおける人の創造を物語る箇所。使徒書日課は、「コロサイの信徒への手紙」から、創造の初めから存在する御子のもとにある教会を提示する箇所。福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、冒頭の序文箇所。

旧約日課(創世記1章より)

・「創世記」は、正典「律法」の第一巻、「聖書」全巻でも第一の書と位置づけられる文書。「天地創造譚」から始まる「原初の物語(原初史)」(1~11章)と、イスラエルの民族的始祖としての族長の時代を四世代の家族の物語として展開する「族長物語」(12~50章)によって構成されている。日課箇所は、「原初の物語」の最初に置かれた「天地創造譚」の一部。

・「原初の物語」は、「聖書」の世界である古代オリエントに共通の天地創世神話を下敷きしながら、正典「律法と預言者」の神観に沿った物語として再構成されていると考えられる。殊に正典編纂に際して大きな影響を及ぼしたのは、前6世紀に起こった「南王国滅亡」とそれに伴う「バビロン捕囚」による、バビロニア=メソポタミア文化の直接的な影響である。すでに前8世紀の新アッシリア王国の台頭とレバント地方(シリア・パレスチナ)に対する覇権的実効支配によって、北王国イスラエルは滅び、残った南王国も、エジプトからの影響を徐々に脱しつつあった。この「脱エジプト」が完成するのは、バビロン捕囚を解いたキュロス王率いるペルシア帝国である。正典「律法」は、まさにこのような時代に編纂されたもので、エジプト的価値観や世界観から、シュメール文明に端を発するメソポタミア・ペルシア的価値観・世界観へと意図的に転換していくことが求められたのである。

・「天地創造譚」は、誰も目撃したことのない天地の始まりを描写するものであり、観念化された神概念に基づいて展開されるしかないものである。シュメール神話などでは、この神(神々!)自身しか知り得ない出来事を、神が特定の人に開示し、語って聞かせることによって、人は「天地創造譚」を知るようになったものとして描かれている。

・1節「初めに…」は、「神が天地を創造された初め」とも解される表現。すると、2節「地は混沌であって…」が創造の御業が始められる前の状態を意味することになり、必ずしも厳密な意味で万物の原初状態を言い表していることにはならない。別言すれば、「創造」の御業とは、「無から有を生み出す」というような観念的概念ではなく、「混沌とした状態を秩序ある状態に至らしめる」という具体的な概念であるということになる。

使徒書日課(コロサイ1書)

・「コロサイの信徒への手紙」は、「パウロ書簡集」の7番目に置かれた書簡文書。パウロとテモテの連名で、アジア州コロサイに在するキリスト者に宛てて記されている。現代の聖書学者の中には「偽パウロ書簡」とみなす者もいるが、決定的な根拠に欠け、本書簡を「パウロの後継者の手によるもの」として解する理由にはならない。「コロサイ」は、アジア州の環状街道沿いに成立していた都市で、本書簡末尾の挨拶でも触れられる「ラオディキア」に近い。「ヨハネの黙示録」が取り上げる「アジア州にある七つの教会」の中には挙げられていないが、おそらく「ラオディキア」の教会の支部のような位置づけだったと推認される。本書簡は、末尾の挨拶でも周囲の教会に回覧するよう指示がされており、「コロサイ」の信者集団に固有の問題を取り上げているというよりは、アジア州地域の教会に共通の課題を背景にして、より一般的な奨励説教として著されていると考えられる。

・日課箇所は、9節から始められた「祈り」の一部を成しており、その後半で特に「御子」について述べられた部分である。新共同訳では、13節から22節まで繰り返し「御子」という語が現れているが、原文において「御子(ヒュイオス)」の語が用いられているのは13節のみで、14節以降はすべて指示代名詞によって表示されている。つまり、構文上、14節以下は13節で触れられた「御子」を説明する修飾句に相当すると解される。もともと「パウロ書簡集」では「御子」という表現は必ずしも多用されていないが、本書簡は特に少なく、「御子」の意味で「ヒュイオス」が用いられるのは、1:13のみである(3:6に複数形で用いられているが、「〇〇の子ら」の意味での用例である)。

・パウロは日課箇所でも、いわゆる「先在のキリスト論」に立った救済論・教会論を記している。「先在のキリスト論」は、「ヨハネ福音書」に特徴的なキリスト論で、キリストが神と等しい方として天地創造の前から存在されていたとし、それゆえの宇宙論的な救済観を構想する立場である。パウロは、同様の救済観を「エフェソの信徒への手紙」でも述べている。エフェソもアジア州の都市であるが、教会伝承ではそこに「ヨハネ福音書」を生み出した「使徒ヨハネの教会共同体」が移住してきていたとされており、パウロらとヨハネの共同体が相互に影響を及ぼし合った可能性が考えられ、この救済観をパウロ固有のものとはみなし得ない。

福音書日課(ヨハネ 1 章より)

・「ヨハネ福音書」は、「使徒ヨハネの教会共同体」が生み出した福音書と考えられ、「共観福音書」(マタイ、マルコ、ルカ)とは異なる独自のイエス伝承を多用し、独自の救済観に基づいて編纂されている。ただし、初版編集以降、幾度かの改訂作業を経て現在の構成に至ったと考えられ、一部には相互に矛盾するような記述が残されている。

・日課箇所は、本福音書の冒頭に置かれた序文。「創世記」冒頭を模した書き出しによって、「言(ロゴス)」としての「先在のキリスト」論を展開している。このキリスト論は、一般に「ロゴス・キリスト論」などとも呼ばれており、2 世紀以降の古代教父らの神学論議に大きな影響を与えた。なお、ギリシア語「ロゴス」は、通説では「概念を伴う言葉」を意味するとされ、「話された言葉」を意味する「レーマ」と区別されて用いられる。この「ロゴス」は、新共同訳の他の箇所では通常「言葉」と訳され、日課箇所の場合のみ「言」と訳されているが、このような訳し分けをする必然性は見いだせない。

・冒頭 1 節「初めに(アルケー)」は、「創世記」を模した表現とされるが、実際には、ギリシア語旧約聖書(七十人訳)の「創世記」冒頭は、「エン・アルケー」で始められている。むしろ、同じ表現「アルケー」で始められるのは「マルコによる福音書」であり、「ヨハネ福音書」が共観福音書に代わる福音書を提示しようとしたという意図を読み取れるかもしれない。

来週の誕生日 (10月29日~11月4日)

主日礼拝の讚美歌から

・21-223 番「造られたものは」(= I-75 番「ものみなこぞりて」)は、13 世紀イタリアの修道士アッシジのフランチェスコの宗教詩「太陽の讚歌」による讚美歌。曲は、17 世紀ドイツで出版された讚美歌集所収の原曲をヴォーン・ウィリアムスが修正し、広く英語圏でも広まったもの。

・21-171 番「かみさまのあいは」(= E40 番)は、カトリック司祭・佐久間彪が作詞した創作詩編歌(148 編)で、1980 年版『典礼聖歌』に所収後、1987 年版『こどもさんびか2』に採用された。ローマ・カトリック教会は 1960 年代に開催した第 2 ヴァチカン公会議の結果、それまでの世界共通ラテン語典礼という原則を大転換し、信徒が完全に母国語でミサにあずかるという原則で典礼改革が行われた。以来、数多くの日本語典礼聖歌が創作され、その中からプロテスタント讚美歌に導入されたものも少なくない。プロテスタントとの共同翻訳である『聖書・新共同訳』も、この典礼改革の一環で行われたもの。佐久間司祭は、日本でこの典礼改革を担った委員の一人。

・21-363 番「み神の力は」は、18 世紀前半の代表的な英語讚美歌作家 I.ウオッツが子どものための讚美歌集(1715 年)のために作詞したものに、V.ウィリアムズが紹介したイギリス民謡曲を組み合わせたもの。

21-223「造られたものは」

Laudato si', mi Signor

「太陽の賛歌」(アッシジの聖フランシスコ)

(訳: 石井健吾)

いと高い、全能の、善い主よ、
 賛美と栄光と誉れど、すべての祝福は、あなたのものです。いと高いお方よ、このすべては、あなただけのものです。だれも、あなたの御名を呼ぶにふさわしくありません。

私の主よ、あなたは称えられますように
 すべての、あなたの造られたものと共に太陽は昼であり、あなたは太陽で私たちを照らされます。太陽は美しく、偉大な光彩を放って輝き、いと高いお方よ、あなたの似姿を宿しています。

私の主よ、あなたは称えられますように
 姉妹である月と星のためにあなたは、月と星を天に明るく、貴く、美しく創られました。

私の主よ、あなたは称えられますように
 兄弟である風のために。まだ、空気が雲と晴天と、あらゆる天候のためにあなたは、これらによって、御自分の造られたものを扶け養われます。

私の主よ、あなたは称えられますように
 姉妹である水のために。水は、有益で謙遜、貴く、純潔です。

私の主よ、あなたは称えられますように
 兄弟である火のために。あなたは、火で夜を照らされます。火は美しく、快活で、たくましく、力があります。

私の主よ、あなたは称えられますように
 私たちの姉妹である母なる大地のために。大地は、私たちを養い、治め、さまざまな実と色とりどりの草花を生み出します。

私の主よ、あなたは称えられますように
 あなたへの愛のゆえに赦し、病いと苦難を堪え忍ぶ人々のために。平和な心で堪え忍ぶ人々は、幸いです。その人たちは、いと高いお方よ、あなたから栄冠を受けるからです。

私の主よ、あなたは称えられますように
 私たちの姉妹である肉体の死のために。生きている者はだれも、死から逃れることができません。大罪のうちに死ぬ者は、不幸です。あなたの、いと聖なる御旨のうちにいる人々は、幸いです。第二の死が、その人々をそこなうことは、ないからです。

私の主をほめ、称えなさい。
 主に感謝し、深く喜びくだって、主に仕えなさい。

21-363「み神の力は」

I Sing the Almighty Power of God

1. We sing the mighty power of God / that made the mountains rise, / that spread the flowing seas abroad / and built the lofty skies. / We sing the wisdom that ordained / the sun to rule the day; / the moon shines full at his command, / and all the stars obey.
2. We sing the goodness of the Lord / that filled the earth with food; / he formed the creatures with his word / and then pronounced them good. / Lord, how your wonders are displayed, / where'er we turn our eyes, / if we survey the ground we tread / or gaze upon the skies.
3. There's not a plant or flower below / but makes your glories known, / and clouds arise and tempests blow / by order from your throne; / while all that borrows life from you / is ever in your care, / and everywhere that we can be, / you, God, are present there.